

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 にじ 組	5 月 30 日 ( 金 )	田中 利果

## ● 実施計画

活動テーマ		
サイエンス ～天気～ くもと雨についてしろう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
日頃から子どもたちは空を見上げて雲の形や天気の変化に興味を示しており、「今日は晴れるの?」「雲はどうやってできるの?」「あれは何の雲なの?」などの質問が多く見られる。自身の所属する組の名前がにじ組のため、虹についての興味を持つ様子もある。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:05	<p>・4月④の活動でどんな天気の日公園で探索したか振り返る。</p> <p>・「公園に行った日はどんな天気だったか覚えている?」「公園に行って遊ぶことができる日はどんな天気?出来ない日はどんな天気?」「どんな天気があるのかな?」等と問いかけをして振り返りや発言がしやすいよう工夫する。</p> <p>・くもりと雨について考えていく。雲はどのように表れるのか?どのように出来るのかを子どもたちに聞く。</p> <p>・意見はホワイトボードにまとめる。</p> <p>・「雲はどこからくるのかな?」「雲は何でできているのかな?」「雲はどんな形がある?どんな色がある?」「雨はどこからくるのかな?」「雨は何でできているのかな?」と問いかけ、イメージしやすいように声をかける。</p>	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 室内で写真や図を見ながら話し合えるスペースを確保する。</li> <li>・ 室内で実験が安全に行えるスペースを確保する。</li> </ul> <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電気ポット</li> <li>・ 透明のビニール袋</li> <li>・ 雲の写真集</li> <li>・ 雲・雨・雪の発生原理の図</li> <li>・ ホワイトボード</li> <li>・ ホワイトボードマーカー</li> <li>・ 写真や図を掲示するためのマグネットなど</li> </ul> <p>■参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 雲の写真集 (巻雲、巻層雲、巻積雲、乱層雲、高層雲、高積雲、積乱雲、積雲、層雲、層積雲、穴あき雲、レンズ雲、スーパーセル等)</li> <li>・ 雲・雨・雪の発生原理の図</li> </ul>
10:05～10:15	<p>・写真や図を使ってさまざまな雲の形を観察。</p> <p>・グループで意見を出し合う。「雲の形はどうなっているかな?一緒?違う?」「違うとしたら、どんな形がある?」「雲はどこからくるかな?」「何でできているのかな?」「雲と関係あるのかな?」「友達の意見を聞いて同じところ、違うところがあるかな?」と問いかけ、発言を援助する。</p> <p>・話し合ったことをホワイトボードにまとめる。</p>	<p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電気ポットとビニール袋を使った実験を予め検証しておく。</li> </ul> <p>【実験】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①電気ポットの中にお湯を沸かす。</li> <li>②お湯が湧いたら、電気ポットの蓋を開け、湯気を放出する。</li> <li>③湯気が上がっている上に透明のビニール袋を広げ、湯気を受け止める。</li> <li>③ビニール袋の口を閉じ、中の湯気を観察する。</li> <li>④時間が経ち、湯気が水の粒となったら、ビニール袋の口を開け水滴を落とす。</li> </ol>
10:15～10:35	<p>・高さによって雲の形が異なること、雲が水蒸気からできていることを図や写真を見ながら伝える。</p> <p>・保育者は、子どもたちの意見を引き出したり、形状と高さについて気づけるような問いかけを工夫する。</p> <p>・電気ポットとビニール袋を使った実験をすることを伝える。</p> <p>・開始する前に電気ポットから出る湯気はとても熱いことを伝え、観察する際の約束を話し合い決める。</p> <p>・実験はどのようになるかをグループで予測を話し合う。</p>	

10:35~10:40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合ったことをホワイトボードにまとめる。</li> <li>・電気ポットから出る湯気はとても熱いことを伝え、観察する際の約束を話し合い決める。</li> <li>・電気ポットとビニール袋を使った実験を行い、雲と雨の発生の仕組みを観察する。</li> <li>・「今日、気づいたことや、感じたこと、思ったことは何かな？」と問いかけ、自分なりの気づきや感想を言葉にする機会をつくる。</li> <li>・雲・雨・雪の発生原理の図をみんなで再度見て、雲は水蒸気(湯気)が上に上がり、ある程度集まって、粒が大きくなり、空から落ちて雨になるということを確認する。</li> <li>・「空から降るものは雨だけかな？」と問いかける。</li> <li>・次回は、雨と雪についての実験をしてみることを提案する。</li> </ul>	
-------------	--	--

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本活動では、雲の仕組みや特徴、雨ができる仕組みについて、写真や図を使った観察を通じて学んだ。</li> <li>・導入では、天気についての話を広げ、子どもたちの知識や疑問を引き出した。その後、さまざまな雲の写真を見ながら違いを考え、雲のでき方についてグループで意見を出し合った。</li> <li>・また、電気ポットとビニール袋を使った実験を行い、雲と雨の発生についてより実感をもって学ぶことができた。</li> </ul>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「この雲、見たことある!」、「こっちはふわふわしてるね!」、「雲ってどこからくるの?」「ここは寒そうな場所だね」「これ知ってる、入道雲だ」など、子どもたち同士で意見を交換しながら、話し合う様子が見られた。</li> <li>・実験では、「袋が白くなった!」「端っこに水がついてる!」と驚きの声が上がった。</li> </ul> <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「どうしてこの雲は高いところにあるのかな?」と問いかけ、子どもたちが自分で考える機会を作った。</li> <li>・結論を急がず、考えるプロセスを大切にされた。</li> <li>・実験時は安全に配慮しながら、子どもたちが自ら試せるようにサポートした。</li> </ul>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験が上手くいくかという結果に注目してしまいがちだが、本テーマである雲と雨に結び付けた観察ができるような問いを行ったことで、天気への興味を広げるきっかけとなった。また、問いかけに関する答えが正解ではなくても、否定することはせず、そういう答えもあるねと受け入れるようにした。</li> <li>・予想を立てることが難しい子もいたが、子どもたち同士で意見を共有することで考えを深められた。また、自分なりの意見を積極的に発表する児が多かった。</li> <li>・雲の写真を見比べることで、子どもたちが違いに気づき、興味をもちやすかった。</li> <li>・今後も室内外で空を観察して、本テーマに関する探求心を養っていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際はつかむことの出来ない「雲」ですが、「ふわふわ」しているなどの、想像力を生かし実験へと繋げる事ができた様です。「天気」についても日々見上げたり、肌で感じたり、触れてみたり、視覚教材写真などで知識を得たりと、興味が広がりました。プラス興味を引き出す実験、観察へとつながりました。 答えや結論を急がず「考える」プロセスを大切にされた事で、この先への探求の道が広がる事を楽しみにしています。</li> </ul>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 にじ 組	8 月5、12日（火）	田中

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの ～水～ 水ってなに？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
水を触ったときの冷たさや流れる様子、こぼれたり消えたりする不思議さに日常的に興味をもっている。「なんでぬれるの?」「なんで流れるの?」と、感覚を通じた体験から水に関心を寄せている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:10	・水とは何かを問いかける。  ・子どもたちの意見をホワイトボードにまとめる。	【環境設定】 ・安全に探究できるよう環境を設定する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。
10:10～10:30	・水を水槽やコップに入れて観察してみる。  ・さまざまな形の容器に水を入れて、形の変化を探究してみる。  ・水の流れを探究してみる。  ・温度で水がどのように変化するかを調べてみる。	【活動使用教材】 ・水 ・絵の具(水色) ・透明のプラスチックコップ ・さまざまな形の容器(皿、コップ、袋など) ・スロープ ・電気ポット ・氷 ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー
10:30～10:40	・探検での発見や感想を発表する。発表の内容をホワイトボードにまとめていく。  ・水の性質について確認する。	【事前準備】 ・水を扱う活動になるため、水で濡れる点に注意し、転倒などの事故を防ぐよう環境を設定しておく。 ・牛乳パックやペットボトルなどで傾斜のあるコース(スロープ)を用意しておく。子どもたちと作成しても良い。 ※切り口でけがをしないよう配慮する。 ・氷を作っておく。子どもたちと一緒に作っても良い。 ・探究活動で使用する用具の使用方法を設定しておく。

● 実施報告

探究活動の実践内容	動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・導入では、水はどのようなものか考え、「飲み物」「白、透明、水色」「味はしない」「海、川、浄水場」「いろんな形、形がない」など、どういった時に使うものか、見た時の印象などから水について考える発言していた。</p> <p>・水について、色、形、流れ、状態変化などをスロープや氷を使った遊びや色水遊びなどの体験を通じて探究を深めた。</p> <p>・水色と白の絵の具を溶かした色水、何も溶かしていない水で色を見比べて、水の色を考えて、その後海や湖の写真と見比べて何故青いのか考えた。</p> <p>・振り返りでは、気づきや調べた内容を共有したり、発表したりした。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「雨とか雲も水で出来てるよね」</li> <li>・「水色っていうけど、コップの水は透明だね、何で？」</li> <li>・「水も氷もいろんな形で、形がないね」</li> <li>・氷を使ったカーリング遊びを行い、遊んでいく内に次第に溶けて水になる様子を観察して楽しんでた。</li> </ul> <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが見つけたことに対して、「ほんとうだね！なんでそうなるんだろう？」と問いかけを重ねることで、さらに観察や考察が深まるように意識した。</li> <li>・水色についてじっくり考えられるように、水色の海や湖などの写真を用意して、一緒になぜコップの水と色が異なるのかを考える時間を設けた。</li> </ul>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・水の流れを感じられるよう、一緒に牛乳パックでスロープを作り、複数回使用して遊んだことで、水への興味が高まった。</p> <p>・保育者が単純に答えを「教える」のではなく、子どもたちと「一緒に気づく・一緒に不思議がる」というスタンスで関わるのが、探究的な学びの促進につながると感じた。</p> <p>・わくわく探求ラボで雨や雲に関する実験を行ったことを覚えていて、水に関して意見を出し合ったときにすぐに「雨」「雲」を連想して答える子がいて、以前の取り組みが活かしているように感じた。</p>	<p>水とは「何」かを問いかけることについて色、感触、動き、飲み物自然物など壮大がテーマでしたが、色と感触流れを中心に活動の中、実験を含めた取り組みが子どもたちにとって、とてもわかりやすいものでした。写真などの視覚教材を取り入れた事で、わかりやすかったと思います。何故何、どうして、どのようにと、質問と合わせて、不思議という意識感覚も学びにつながったと思います。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 にじ 組	10 月 17 日 ( 金 )	田中

## ● 実施計画

活動テーマ		
アート～色のふしぎ～ 色について知ろう、色を作ってみよう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
塗り絵や描画などで様々な色に触れて、色の名称に興味を持つ姿がある。一方、色に間接的に関わる鉱石や自然に関しても図鑑などを読み込み、探究心を深める芽を見せている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	【環境設定】 ・安全に探究できるよう環境を設定する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。
10:00～10:10	各色の原料に関してクイズ	【活動使用教材】 ・色の原料に関する資料 ・絵の具、パレット、水入れ、筆 ・色画用紙 ・白い画用紙 ・カラーセロファン ・両面テープ  【事前準備】 ・それぞれの教材を人数分用意しておく。
10:10～10:40	カラーセロファンを使ってメガネ作り	
10:40～11:20	絵の具を混色して、色画用紙の色を作ってみよう	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>①色の原料に関するクイズ 赤、青、黄色などの色を作るにはどんな材料が使われているかクイズ形式で知る。</p> <p>②カラーセロファンを使ったメガネづくり 赤、青、黄色のカラーセロファンと画用紙を使って、メガネを作る。</p> <p>③色画用紙の色を絵の具で混色して作ってみよう 様々な色画用紙の色と近づくように絵の具を混ぜてみる。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・赤の原料はトウガラシ、リンゴ、青の原料は青い花など自由な発想で予想を楽しんでいた。</li> <li>・カラーセロファンの組み合わせによって、のぞいた時の色が異なることを楽しみ、保育者や友達のメガネにも興味を持っていた。「宇宙の色みたい」「レインボーに見える」など、自分なりの言葉で見える景色を言語化していた。</li> <li>・なかなか混色した色が、目指す色にならない時は「もっと白を入れたらいいかな」「灰色作るには何色を入れたらいい？」など友達で話し合っていた。</li> </ul> <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色の原料に関するクイズでは、一人ひとりが予想して楽しめるように、意見を発表しづらい様子の児を気にかけて、保育者との会話の中で、自分なりの予想ができるように促した。</li> <li>・色画用紙の色と作った色をよく見比べて、どの色を入れたらいいか考えることを楽しめるような声掛けを行った。</li> </ul>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・普段身の回りにあるものがどのような原料で着色されているか、それ自体を疑問に思う様子はなかったものの、クイズ形式で問いかけたことで、興味を深めることに繋がり、良かった。</p> <p>・元々絵の具を使うことを好む児が多く、今回の活動にも積極的に取り組み、自分なりに考えてながら混色を行っていた。予想通りの色になったり、思っていた色とは異なる色になってしまったりすること、そのものを楽しみ、また考えを巡らしていた。次月も、子どもたちが同様の活動を行いたい様子があれば、再度実施を検討したい。</p>	<p>肉眼で見ている色の世界に一つ色を加えると、どんな景色に映るのかとても、興味深く発見を急ぎ、メガネ作成に戸惑っていた場面もありますが、出来上がると不思議そうな表情で望遠鏡を覗いていました。カラフルな世界に、宇宙、自然。宝石の色に見えるの聲があがりました。図鑑の岩石鉱物が人気なのとつながっていました。一人ひとりの絵具やパレットを喜び色の発見や探求へと繋がりました。色づくりは、見える感覚の違いも垣間見えました。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 にじ 組	1 月 26 日 ( 月 )	田中

## ● 実施計画

## 活動テーマ

おかね～おかねってなんだろう～

## 活動テーマに関する 日頃の興味関心について

お金自体への興味が元々強かった訳ではないものの、数字や数への興味がある児が多かった。

## 活動スケジュール

## 環境設定 ・ 準備物

時間	内容	環境設定 ・ 準備物
10:00～10:10	お金は何のためにあるか、お金がないとどうなるか、お金の他に買い物で使うものは何があるかなどを話し合った。	<b>【環境設定】</b> ・子どもが見本を見やすいように環境を整える。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を重視する。  <b>【準備物】</b> ○わらしべちょうじゃの絵本 ○折り紙 ○はさみ ○ペットボトルのキャップ ○色鉛筆 ○玩具のお金 ○ホワイトボード  <b>【事前準備】</b> ・必要な絵本や用具を用意しておく。
10:10～10:15	「わらしべちょうじゃ」の絵本を読んで、物々交換について知った。	
10:15～11:00	玩具のお金の観察、折り紙でお金の製作	
11:00～11:30	作ったお金でお買い物ごっこ	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・導入として、お金に関する複数の議題を話し合い、お金とはそもそも何かを考えてから、活動の本題に入った。</p> <p>・お金がなかったらどうなるかという問いかけに「物々交換になる」と答える児がいたため、スムーズにわらしべ長者の読み聞かせに移った。</p> <p>・その後は、玩具のお金の観察、折り紙でお金を作ってみる、作ったお金でお買い物ごっこをしてみるという遊びの中でお金への興味を高める活動を行った。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お金がなかったらどうなるという問いかけに対して、「困る」「物々交換になる」と答えていた。</li> <li>・お金以外に買い物で使うものでは、「電子マネー」「カード」「ペイペイ」「スイカ」などの声があがった。</li> <li>・お金の製作では、数字を入れた後は、好きな動物やキャラクターを描いたり、玩具のお金を見ながら模倣して描いたりして集中して取り組んでいた。</li> <li>・お買い物ごっこでは、いくら出したらいいか分からず戸惑う児に対して、他児が教えてあげる様子もあった。</li> </ul> <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問いかけに対して意見が出ない時は、噛み砕いて理解しやすいような質問に変えるようにした。</li> <li>・お財布を作りたいという意見もあったため、お金の製作が早く終わった児には折り紙でお財布を作るように促した。</li> </ul>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>お金への興味が高まり、普段の買い物で何気なく保護者が使うお金にも興味が増した様子があった。</p> <p>お金そのものをじっと観察して硬貨や紙幣の見た目の違いを知ったり、お金以外にどんなものが買い物で使われるか意見を出し合ったりしたことで、ただお金を作ってみるのではなく、子どもたちなりにお金に対して考えて探究活動を行うことができた。</p>	<p>導入としての視覚教材の題材「わらしべちょうじゃ」は子ども達も理解しやすく、お買い物ごっこにもつながったと思います。お金の価値が電子マネー等々により、意識や感覚が変化している時代にたいして、自分たちで、お金についての考えや意見を出し合えた事で、消費意識価値、興味へと広げて欲しいと思います。お金を探求していくことで、ご家族のお金に対する考え方や意識を家族と話し合いにもつながる事と思えました。</p>